

ポーっとなんかしてられない

新国 勇

夏になれば耐えられない猛暑がつづき、巨大台風が発生して堤防決壊や土砂崩れがおきる。国はインフラを強化し、学校にはエアコンの設置をすすめるという。国政選挙や地方選挙があれば、景気・雇用、人口減少といった公約を掲げる候補者がほとんど。行政の対応も選挙の公約もたいせつなことではあるが、そんな対処療法では解決できない時代になってきているだろう。

わたしたちは、いま地球温暖化という大問題に直面している。このままにもしないで二酸化炭素を排出しつづければ、2030年には世界の大気温度は産業革命前に比べて1.5度上昇するという。160年ほど前にはじまった産業革命で、すでに1度上昇している。それがわずか10年たらずで0.5度あがるというのだ。たった1.5度の上昇でなにが変わるか。この1.5度は、すでに後戻りできない地点ということで、ティッピングポイントと呼ばれている。1.5度にたった2030年以降の地球環境は、将棋倒しのように負の連鎖がおきていくという。すなわち北極や南極の海水が溶け出し、海面と海水温が上昇、永久凍土も溶けはじめてメタンガスが発生、スーパー台風やスーパーハリケーンが続発、洪水、高潮、高波、干ばつ、山火事も頻発し巨大化、長期化するといわれている。それらは悪化している水の循環、陸や海の生物多様性の劣化にいつそう拍車をかける。地球の資源や回復力は無限ではない。経済活動は破綻するだろう。予想されるのは資源や食料の奪い合いであり、紛争や戦争である。これは他人ごとではなく、わたしたち以降の世代の未来をうばってしまう深刻な事態だ。

もはや温暖化といったなまやさしい状況ではない。気候炎暑化とよんでいる国もあるほどだ。気候の危機であり、気候の非常事態である。これだけ大規模な気象災害が毎年発生し、世界中の科学者がさんざん警告しているにもかかわらず、日本の政治家やマスコミの反応はにぶい。へたに行動して批判されるのをおそれ、おじけづいているとしか思われぬ。たぶん世界中が同じ方向にうごきはじめてきたとき、大あわてで方向転換することだろう。

あまりにもでかすぎる話で、いまなにをすればよいかわからない。とりあえずは、つぎのふたつを実行してはどうだろう。

ひとつは、「電気はこまめに消す」「つかわないコンセントは抜く」「レジ袋はもらわない」「自動車のアイドリングはしない」「シャワーの出しっぱなしはしない」「ペットボトルは買わないでマイボトルを使う」などをこころがけることだ。地球環境が限界点を越えようとしている今こそ、ささいなことからはじめるべきだ。一つひとつの積み重ねが、大きなうねりとなって地域や国を変え、地球を変えていく力になると信じている。

ふたつめは、政治家に気候問題を政策課題にあげさせること。ヨーロッパでは環境問題を主要政策にかかげる政党が支持を集める。ドイツでは、二酸化炭素を大量に排出する航空機を使わずに、排出量のすくない鉄道の利用をすすめる政策がつけられるという。それは国民の意識が変わらなければ実現しない。日本の場合、経済発展や産業振興がたいせつな政策で、気候問題は票にならないから政策課題とならない。そうなるのは目先の利益しか考えない国民が多いからだ。その意味では有権者の意識が変わらなければならぬ。なかでも若者が気候や環境問題に敏感になってほしい。将来、悪化した地球に住むのは、かれらなのだから。

猶予期間はあと10年ほどしかない。激変する地球をまえに、若者やその子ども、そして孫たちがすこやかに生きていくことはできるのだろうか。そのためには、足元にあるあたりまえのしあわせを実感して生活していくようにするのがいちばんだと思う。「家族や友人といつも一緒にいられる」「熱中できる趣味がある」「得意なスポーツがある」「自分の住む地域が大好き」ということに満足感を覚えられれば、なにもこわくはない。いまこそ経済成長という無理な目標をとり払い、地球に生かされていることに感謝しつつ、生活と意識を変えよう。

ポーっとなんかしてられない。

癒しの森 調査報告

高原 豊 高原 郁子

2013年からほぼ毎年、場所を変えて、環境省の里山モニタリングサイト1000の植物調査手法を用いて花暦を作成しています。2013年は只見町青少年旅行村いこいの森、2014年は要害山、2015年は季の郷湯ら里周辺、2017年は蒲生岳周辺で調査を実施し、2018年は布沢の癒しの森で行いました。

布沢の癒しの森は、ブナの森の体験・観察コースとしてよく知られています。5月から11月まで毎月1回、同じルート(図1)を歩いて、蕾、花、実をつけている植物を見つけて名前を記録しました。その場で分からないものは写真を撮り、後で名前を調べました。シダ類は発見時に名前が分かるものだけ、名前を調べるのが難しいイネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類および栽培種は原則として調査対象外としました。調査にはのべ42名が参加しました(表1)。

今回の調査地は只見町と金山町の境界になっている緩やかな起伏のある尾根で、標高は600m～630mです。遊歩道入口付近はスギやカラマツの植林地やミズナラ自然林があり、その奥はブナの林になっていて、駐車場から遊歩道入口までの少しの県道区間を除くと、全部森の中というコースです。

調査により124種の植物が確認され、花暦を作成しました(表2)。ユキグニミツバツツジがあるはずですが、確認できませんでした。花が咲かなかったのかもしれませんが。日本海側に生育するものや只見町指定貴重動植物など注目すべき植物は16種(表3)で、国や県のレッドリストに該当

する植物はありませんでした。また、これまでの調査では確認された種類が200種を超えていましたが、今回は最も少ない種数となりました。これは、調査コースがほぼ森の中という均質な環境であったためと思われます。これまでの調査地と異なる点は、ヒメモチヤツルシキミ、エゾユズリハといった常緑の低木が目立ったことです。

警戒すべき外来種としてセイタカアワダチソウ、エゾノ



調査のようす

表1 調査日と参加者

調査日	天候	人数	調査者氏名
5月13日	小雨	14人	新国勇、熊倉彰、濱口喜博、濱口徳江、古川勝久、古川佑子、中野智子、中野一、中野晴二郎、大宮明、大宮みゆき、渡部和子、高原豊、高原郁子(学ぶ会のバードウォッチングと兼ねて開催)
6月11日	小雨	6人	渡部和子、遠藤菜緒子、大宮明、大宮みゆき、高原郁子、高原豊
7月8日	くもり	4人	大宮明、高原朗、高原郁子、高原豊
8月6日	くもり	5人	大宮明、渡部和子、高原朗、高原郁子、高原豊
9月10日	くもりのち雨	4人	大宮明、渡部和子、高原郁子、高原豊
10月6日	晴れ	3人	高原朗、高原郁子、高原豊
11月11日	くもり	6人	大宮明、大宮みゆき、菅原孝、高原朗、高原郁子、高原豊

計 7回 42人



図1 調査ルート

国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)を利用

表2 癒しの森の花暦

種名の は只見町指定希少動植物、 は日本海要素の植物

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
フキ	実	実					
ブナ	実	実				実	実
オオイワウチワ	実	実	実				
アカイタヤカエデ	花	実					
ハイイヌガヤ	花	実				実	
ヒメアオキ	花	実	実			実	実
アブラチャン	花				実	実	
オクチョウジザクラ	花						
カタクリ	花						
スマレ	花						
ナガハシスマレ	花						
ハウチワカエデ	花						
ミツバアケビ	花						
ムラサキヤシオツツジ	花						
モミジイチゴ	花						
ツノハシバミ	花		実				
タムシバ	花			実		実	
ミズナラ	花					実	
チゴユリ	花	花	実	実	実	実	実
オオタチツボスマレ	花	花					花
ツボスマレ	花	花					
オオバクロモジ	花	花	実	実			
ツクバネソウ	蕾	花	花	実			
ミツバツチグリ	蕾	花	蕾	花			
ウワミズザクラ		実					
オオカメノキ		実					
コハウチワカエデ		実					
オオバボダイジュ		実				実	
オオウラジロノキ		実	実			実	
エゾユヅリハ	蕾						実
アクシバ	蕾	花					実
アマドコロ		花					蕾
ウラジロヨウラク		花					
オオヤマフスマ		花					
キバナイカリソウ		花					
サギゴケ		花					
ハクウンボク		花					
ムラサキサギゴケ		花					
ミヤマガマズミ	花	実				実	実
ウメガサソウ	花	実					
ギンリョウソウ	花	実					
ホオノキ	花	実				実	
シオデ	花	花	実				
ヤマツツジ	花						
ツルアジサイ	花	花					
ムラサキツメクサ	花	花	花	花	花	蕾	花
タニウツギ	蕾	花				実	
ミミナグサ	蕾	花					
ヨツバムグラ	蕾	花	実				
オニアザミ	蕾	花	花	実			
フデリンドウ			実				
ヤマウルシ			実				
タカノツメ			実			実	
ササバギラン			実	実	実	実	実
イチヤクソウ	蕾	花	実				
オニノヤガラ		花	実				
ツルアリドオシ	実	実	花	実	実	実	
ウルシ	蕾	花	実				
クルマユリ		花			実	実	
ヤマニガナ		花				実	
イワガラミ		花					
ウツボグサ		花					
エゾノギシギシ			花				
シャクジョウソウ			花				
ドクダミ			花				
ヤマボウシ			花				
ハルジオン			蕾	花			
オカトラノオ			蕾	花	花		
ホウチャクソウ						実	
ナルコユリ		蕾				実	
ヤマユリ		蕾	蕾	蕾	実	実	実
イタドリ			蕾				
キクバドコロ			蕾				
トリアシショウマ			蕾			実	
オトギリソウ			蕾				実
ムラサキシキブ			蕾				
ニガナ			実	花	実	花	
シロツメクサ				花			
ヤドリギ				花			実
アカミヤドリギ							実
コマツナギ				花	蕾	花	実
ヒメジョオン				花	花		
チヂミザサ				花			花
ヨツバヒヨドリ				花			花
マルバハギ				花	実	実	
ヤマハギ				花	実	実	
リョウブ			蕾	蕾	花	花	実
ギシギシ						実	
スギ						実	
コナラ						実	実
ウド						花	実
キンミズヒキ						花	実
ゲンノショウコ						花	実
アカソ						花	
カタバミ						花	
ギンリョウソウモドキ						花	
ハナタデ						花	実
オトコエシ				蕾	花	花	
クルマバハグマ		蕾	蕾	蕾	蕾	花	蕾
クルマムグラ		蕾		蕾			実
ヤマシロギク				蕾			
ミヤマウズラ				蕾		実	
タラノキ				蕾			実
ホツツジ				蕾			実
オオバコ							実
クリ							実
コシアブラ							実
ススキ							実
オオヨモギ						蕾	実
ヨモギ						蕾	実
イヌタデ							花
アキノキリンソウ				蕾	蕾	花	実
ノコンギク							蕾
ツルリンドウ				蕾	蕾	蕾	花
ミゾソバ							蕾
ゴマナ							実
ハイイヌツゲ							実
ヒトツバカエデ							実
ヒメモチ							実
ミヤマナルコユリ							実
セイタカアワダチソウ							花
ウシハコベ							花
ツルシキミ		実					蕾
オヤマボクチ							蕾

ギシギシ、ヒメジョオンが確認されましたが、県道脇に生育していたものの、森林内には侵入していないようでした(表4)。遊歩道沿いに侵入してこないか注意して、侵入したものは駆除した方が良いでしょう。

今回、調査した癒しの森のコースは、起伏が少なくて手軽にブナ林を楽しむことができ、只見町でも利用の多いコースです。絶滅危惧種は確認されませんでした。かえって一般の方を案内するには、一部の種類に注意すれば、保護にあまり気を遣わず気軽に案内できるコースと言えるのではないのでしょうか。この花暦が、皆さんの自然観察の一助となるとともに、自生の植物がいつまでも残っているように見守っていただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご参加いただいた皆さん、大変ありがとうございました。次回の調査もよろしくお願ひします。

〈参考文献〉

会津只見の自然～只見町史資料集第4集【植物編】(只見町史編さん委員会, 2001)、レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-8 植物I(環境省, 2015)、学ぶ会通信vol.9～13(只見の自然に学ぶ会, 2015～2019)、改訂新版日本の野生植物1～5(大橋広好ほか, 平凡社, 2015-2017)、環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp>)、国立環境研究所ホームページ(www.nies.go.jp)、国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)

表3 癒しの森の特徴的な植物・注目すべき植物

種名	科名	日本固有	特徴等
オオイワウチワ	イワウメ科	●	只見町指定貴重動植物、日本海要素の植物
カタクリ	ユリ科		只見町指定貴重動植物
キバナイカリソウ	メギ科		〃
クルマユリ	ユリ科		〃
ヤマユリ	ユリ科	●	〃
ハイイヌガヤ	イチイ科		日本海要素の植物
ヒメアオキ	アオキ科	●	〃
オクチョウジザクラ	バラ科	●	〃
オオバクロモジ	クスノキ科	●	〃
タニウツギ	スイカズラ科	●	〃
ハイイヌツゲ	モチノキ科	●	〃
ヒメモチ	モチノキ科	●	〃
ツルシキミ	ミカン科		〃
エゾユヅリハ	ユヅリハ科		本州では中北部のおもに日本海側の多雪地帯に生育
ウラジロヨウラク	ツツジ科	●	園芸的採取のおそれ
ムラサキヤシオツツジ	ツツジ科	●	〃



イチヤクソウ



クルマユリ



オクチョウジザクラ

表4 癒しの森の生態系被害防止外来種

定着を予防する外来種	
該当なし	
総合的な対策が必要な外来種	
重点対策種	特に問題となる地域や環境
セイタカアワダチソウ	湿原・湿地
その他の総合対策種	特に問題となる地域や環境
エゾノギシギシ	亜高山帯の自然草原や湿地
ヒメジョオン	山地や亜高山帯の草原

環境省ホームページ:生態系被害防止外来種リストより
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

2019年2月26日に福島県知事と只見町長に対して申し入れを行いました。「只見町内の公道での除草剤の使用中止について(申し入れ)」と「只見町亀岡地内における伊南川右岸堤防表法面への階段設置工事の中止について(申し入れ)」の2件です。その経過を報告したメーリングリストの内容と申し入れ書を掲載いたします(申し入れ書は7-10ページ)。

公道への除草剤使用禁止について

2018年の夏、町内の国道や県道の両わきが、除草剤で赤褐色になりました。これについて町に聞いたところ、もうさせないと明言しました。昨年からの多くの批判が寄せられていたので、当然といえば当然です。除草剤の使用は、景観を損ねるばかりか、健全な生態系をこわしてしまいます。

「自然首都・只見」と銘打って町づくりをしている只見町が、越後三山只見国定公園内と只見柳津県立自然公園内、そしてユネスコ登録の只見ユネスコエコパーク内において平然と除草剤をまくという無神経ぶりには怒りを乗り越えて、情けないとしかいえません。しかし、残念ながら県や町にとっては、それほどのことでもないらしいのです。

草刈り予算もない、請負業者もいない、それでも住民要望はでてくる。そのなかでの選択肢だといいます。

民意が行政に反映するのだから、まずは町民の意識を高



除草剤が散布された国道252号田子倉地内

めるしかない。時間はかかりますが、ここは学ぶ会が毅然とした行動をとるべく申し入れをする次第です。

(2019年2月26日 新国 勇)

亀岡堤防のコンクリート階段設置工事について

学ぶ会が福島県知事と只見町長に中止を申し入れた亀岡堤防のコンクリート階段設置工事が取り止めになりました。

南会津建設事務所の石倉河川計画課長から、きょうの午後2時ころ電話があり、中止するとの報告を受けました。わたしたちの願いが通じたのです。

さまざまな圧力と出遅れた行動から、中止させるのはむずかしいかなとも思いましたが、結局のところ、わたしたちの意見が通りました。正論が通ったともいえます。

さびれる一方の地域の活性化はたいせつな課題です。でも、地域を活性化する以前に、種の保存をはかり、その生息地を守っていかなければ、わたしたちの将来は立ちいかなくなってしまうのです。食糧の備蓄もしないで、その日その日のごちそうを刹那的に楽しんでいるようなものです。食べるものがなくなってから騒ぎだしたのでは手遅れです。そうならないために、世界中の国々は生物多様性条約をむすび、国は生物多様性国家戦略をつくって、生物の遺伝子と生息地と種の多様性を守ることに舵をきったのです。

今回の学ぶ会の申し入れは、生物多様性の重要性を真っ向からかけました。行政も為政者も、もはや無視するこ

とができない時代になりました。

この種の運動は、いままでは田舎の同調圧力や為政者へのそんなくなどで、手は上げてもつぶされたものです。

今回のことで、将来に向かって希望と自信がわいてきました。この行動が、わたしたちの未来にとって真の貢献となることを信じて。

(2019年5月14日 新国 勇)



階段設置工事が計画された亀岡の河川敷

平成 31 年 2 月 26 日

福島県知事 内堀雅雄 様

只見の自然に学ぶ会

代表 新国 勇

(事務局)

〒968-0421 福島県只見町字館ノ川 1587 渡部方
T.E.L.& F.A.X. 0241-82-3242
www.fukosya.com/manabu.html

福島県が管理する道路における除草剤の使用中止について (申し入れ)

日頃より、福島県民の生活向上のために邁進されていることに敬意を表します。

本会は、地域の自然資源を活かしたまちづくりを目指して活動している団体です。会員は 80 名を数え、これまでの活動から平成 22 年に南会津地方植樹祭において緑化功労賞、福島民友新聞社からはみんゆう環境賞を受賞しております。

さて、昨年 8 月、福島県が管轄する南会津郡只見町内の公道沿線において除草剤が使用されたことを確認しています。把握した箇所は、国道 252 号田子倉地内、同石伏地内、同塩沢地内、さらに国道 289 号線梁取地内、同大倉地内、さらに県道 153 号小林会津宮下停車場織布地内でした。これらは風光明媚な山岳や湖沼のなかを走る公道です。アナの深緑の中、道路沿いの植物群落は赤褐色に枯れ上っています。除草剤が使用された箇所は、越後三山只見国定公園内および只見柳津県立自然公園内でもありません。さらに重大なことは、本行為がユネスコ MAB 計画に基づく只見ユネスコ BBR (只見ユネスコパーク) の指定地域内において実施されたことです。

すぐれた自然の風景地を保護するための自然公園法、そして貴重な生態系を守り、人と自然の持続可能な社会を築くモデル地域であるユネスコ BBR の理念を無視した行為というしかありません。

当会員の多くは、町内のブナ林など自然に触れることを目的に来町した観光客を案内する町公認自然インストラクターを行っています。昨年は日

的までの道すがら、道路沿いの赤茶けた植物群落を見せながら案内するのたいたいへん恥ずかしい思いをしたという声があがっています。国定公園と県立自然公園、さらにはユネスコ BBR にも指定されている「自然首都・只見」の誇りを足元から汚されてしまったからです。同様の苦情は、多くの町民からも寄せられています。

除草剤の使用は、生態系および人体への影響を考慮して極力避けることはいまや世界の潮流です。環境意識の高まりの中、除草の省力化と予算削減という目先の目的達成だけでは済ませられない問題です。

東京電力福島原子力発電所事故による風評被害払拭のため、福島県による数々の施策が講じられ、成果が見られはじめたなかにおいて、同じ福島県において今回のような行為が行われたことは、遺憾の極みと言わざるを得ません。まして、只見柳津県立自然公園を越後三山只見国定公園に編入するという動きがあるなかにおいて、それに泥を塗る行為ともいえます。

只見ユネスコ BBR、越後三山只見国定公園、只見柳津県立自然公園という国内屈指の傑出した自然環境を有する只見町において、住んでいる住民がなさげなく感じ、訪問した人々から眉をひそめられるようなことを二度としないよう毅然とした道路行政を行っていただきたいと切望いたします。

福島県においては、除草剤の使用によって生態系保全と景観維持を無視する道路管理を行ったことに猛省を促すとともに、今後はその使用を中止することを強く申し入れます。

平成 31 年 2 月 26 日

只見町長 菅家三雄 様

只見の自然に学ぶ会

代表 新国 勇

(事務局)
〒968-0421 福島県只見町戸字館ノ川 1587 渡部方
TEL & FAX 0241-82-3242
www.fukosya.com/manabuhtmi

只見町内の公道での除草剤の使用中止について (申し入れ)

日頃より、町民の生活向上のため諸施策に邁進されていることに敬意を表します。

本会は、地域の自然資源を活かしたまちづくりを目指して活動している団体です。会員は 80 名を数え、平成 22 年には南会津地方植樹祭において緑化功労賞、そして福島民友新聞社からはみんゆう環境賞を受賞しています。

さて、本会では、昨年 8 月、福島県が管轄する南会津郡只見町内の公道沿線において除草剤が使用されたことを確認しています。把握した箇所は、国道 252 号田子倉地内、同石伏地内、同塩沢地内、さらに国道 289 号線梁取地内、同大倉地内、さらに県道 153 号小林会津宮下停車場線布沢地内です。これらは風光明媚な山岳や湖沼のなかを走る公道です。ブナの深緑の中、道路沿いの植物群落は赤褐色に枯れ上っています。除草剤が使用された場所は、越後三山只見国定公園内および只見柳津県立自然公園内でもあります。さらに重大なことは、本行為がユネスコ MAB 計画に基づく只見ユネスコ B R (只見ユネスコエコパーク) の指定地域内において実施されたことです。

すぐれた自然の風景地を保護するための自然公園法、そして貴重な生態系を守り、人と自然の持続可能な社会を築くモデル地域であるユネスコ B R の理念を無視した行為というほかありません。

当会員の多くは、町内のブナ林など自然に触れることを目的に来町した観光客を案内する町公認自然インストラクターを行っています。昨年は日

的地までの道すがら、道路沿いの赤茶けた植物群落を見せながら案内するのたいていへん恥ずかしい思いをしたという声があがっています。国定公園と県立自然公園、さらにはユネスコ B R にも指定されている「自然首都・只見」の誇りを足元から汚されてしまったのです。同様の苦情は、多くの町民からも寄せられています。

除草剤の使用は、生態系および人体への影響を考慮して極力避けることはいまや世界の潮流です。環境意識の高まりの中、除草の省力化と予算削減という目先の目的達成だけでは済ませられない問題です。

東京電力福島原子力発電所事故による風評被害払拭のため、数々の施策が講じられ、成果が見られはじめたなかにおいて、今回のような行為が行われたことは、遺憾の極みと言わざるを得ません。

この度の公道への除草剤の使用については、実施前に福島県山口土木事務所から説明を受けていたという話を聞いております。

只見町は、第 7 次只見町振興計画のもと、「人と自然の共生」を保ちながら持続可能な施策を、あらゆる行政分野において展開していくとしています。本計画ではユネスコ B R に登録されたことを機に、世界に誇れる自然や文化を活かした施策を行うと明記しているのに、なぜ今回の行為を止められなかったのでしょうか。

只見町は、只見ユネスコ B R、越後三山只見国定公園、只見柳津県立自然公園という国内屈指の傑出した自然環境を有し、自然の中心地として「自然首都・只見」を標榜しています。

只見町当局におかれましては、町民がなさげなく感じ、訪問した人々から眉をひそめられるようなことを二度とされぬよう毅然とした態度で行政執行されるよう切望いたします。そして、生態系保全と景観維持を無視した道路管理を行った福島県に対し、公道への除草剤の使用を止めさせることを強く申し入れます。

平成31年2月26日

福島県知事 内堀雅雄 様

只見の自然に学ぶ会
代表 新国 勇

(事務局)
〒968-0421 福島県只見町大字亀岡
TEL & FAX 0241-82-3242
www.fukosya.com/manabuhtml

只見町亀岡地内における伊南川右岸堤防表法面
への階段設置工事中止について（申し入れ）

日頃より福島県民のため諸施策を講じられてきていることに敬意を表します。本会は、発足当初から川辺を緑取る樹林帯である水辺林の調査と保護を目的として活動している団体です。

さて、昨年、南会津郡只見町大字亀岡地内の伊南川右岸堤防において、堤防裏法面をコンクリート製の階段とする工事がなされました。隣接するサントパレコート観覧席とのことですが、その後、当該堤防の表法面にも河川敷に降りるためのコンクリート階段を設置する計画案があること聞き及んでいます。本事業について、本会として下記の理由により、当該地へのコンクリート階段を設置する計画の中止を申し入れます。

記

1. 亀岡地内の伊南川河川敷は、ユビソヤナギが自生する場所です。本種は環境省レッドデータにおいて絶滅危惧種Ⅱ類とされており、福島県内においては伊南川下流域と只見川支流叶津川の一部にだけ自生している貴重種です。福島県下において唯一ここだけに絶滅が危惧されるユビソヤナギが自生しているのは、当該地が人為の影響が及んでいない生態系を有している証です。たとえ河川敷内に手を入れずに階段だけを設置しても、人為の影響が生ずることは避けられません。人為による攪乱を防ぎ、絶滅危惧種を保護していくためには現状を維持しておくことが最善の策です。
2. 河川法第1条は、河川の管理は「治水」と「利水」のほかに「河川環境の整備と保全」をしよう定めています。このためユビソヤナギの集中自生地である伊南川流域においては、当該河川に自生す

るユビソヤナギの分布調査及び生態調査を行い、生育環境を保全するためのゾーニングを行った上で保全策を講じ河川工事を行う必要があります。本事業の場合は、流域全体の保全策を講じた上で対応すべきものです。

3. 伊南川は、有史以来、暴れ川として知られ、洪水が多発する河川です。とくに亀岡地区においては、本流がカーブして当該堤防にぶつかると、洪水の常襲地帯となっています。現在、当該地の河川敷に降りることは容易ではありませんが、ここに階段が設置されれば不特定多数の人の接近を可能とし、防災面においても管理面においても問題が生ずるものと考えます。
4. 新たな工物を設置すれば、経年劣化によるメンテナンスや除草対策等の諸負担が生じます。あいまいな目的でつくられた工物は、利用されずに危険な状態のまま放置されるケースが多く見受けられます。新規工物を設置するにあたっては、投資効果と維持経費を熟慮すべきです。
5. 当該地の対岸には、只見町ブナセンターが設置するユビソヤナギ観察林があります。水辺へのふれあいを求めているのであれば、本観察林を活用した方が防災上も安全であり整備費もほとんどかからないと考えます。

以上

平成 31 年 2 月 26 日

只見町長 菅家三雄 様

只見の自然に学ぶ会

代表 新国 勇

(事務局)
〒968-0421 福島県只見町戸字館ノ川 1587 渡部方
T E L & F A X 0241-82-3242
www.fukosya.com/manabuumi

亀岡地内における伊南川右岸堤防表法面への
階段設置工事の中止について（申し入れ）

日頃より町民のため諸施策を講じられていることに敬意を表します。
本会は、発足当初から川辺を縁取る樹林帯である水辺林の調査と保護を
目的として活動している団体です。
さて、昨年、亀岡地内の伊南川右岸堤防において、堤防裏法面をコンク
リート製の階段とする工事がなされました。隣接するサンドバレーコート
の観覧席とのことです。そして今後、当該堤防の表法面にも河川敷に降り
るためのコンクリート階段を設置する計画案があると聞き及んでいます。
本事案について、本会として下記の理由により、当該地へのコンクリート
階段を設置する計画の中止を申し入れます。

記

1. 亀岡地内の伊南川河川敷は、ユビソヤナギが自生する場所です。本
種は環境省レッドデータにおいて絶滅危惧種Ⅱ類とされており、福
島県内においては伊南川下流域と只見川支流叶津川の一部にだけ自
生している貴重種です。福島県下において唯一ここだけに絶滅が危
惧されるユビソヤナギが自生しているのは、当該地が人為の影響が
及んでいない生態系を有している証です。たとえ河川敷内に手を入
れずに階段だけを設置しても、人為の影響が生ずるのは避けられま
せん。人為による攪乱を防ぎ、絶滅危惧種を保護していくためには
現状を維持しておくことが最善の策です。
2. 河川法第1条は、河川の管理は「治水」と「利水」のほかに「河
川環境の整備と保全」をすよう定めています。このためユビソヤ
ナギの集中自生地である伊南川流域においては、当該河川に自生す

るユビソヤナギの分布調査及び生態調査を行い、生育環境を保全す
るためのゾーニングを行った上で保全策を講じ河川工事を行う必要
があります。本事案の場合は、流域全体の保全策を講じた上で対応
すべきものです。

3. 伊南川は、有史以来、暴れ川として知られ、洪水が多発する河川
です。とくに亀岡地区においては、本流がカーブして当該堤防にぶ
つかるため、洪水の常襲地帯となっています。現在、当該地の河川
敷に降りることは容易ではありませんが、ここに階段が設置されれ
ば不特定多数の人の接近を可能とし、防災面においても管理面にお
いても問題が生ずるものと考えます。
4. 新たな工造物を設置すれば、経年劣化によるメンテナンスや除草
対策等の諸負担が生じます。あいまいな目的でつくられた工造物は、
利用されずに危険な状態で放置されるケースが多く見受けられます。
新規工造物を設置するにあたっては、投資効果と維持経費を熟慮す
べきです。
5. 当該地の対岸には、只見町ブナセンターが設置するユビソヤナギ
観察林があります。水辺へのふれあいを求めているのであれば、本
観察林を活用した方が防災上も安全であり整備費もほとんどかか
らないと考えます。

以上

ヤナギって、なんの役に立つの？

ある日の出会いから

床屋にいった。自分が終わるころ60代前半の女性客が入ってきた。伊南川沿いの熊倉集落に住む人だった。雑談の最後、伊南川に生えるヤナギの話になった。ここで「ヤナギって、いったいなんの役に立つんだべ？ 熊倉橋の両側だって邪魔だべや。なくなったってだれも困るわけだねえべ？」と話された。

うーん、これって、どこでもいわれる。おおくの住民が思っていることなんだろうな。

でも、ブナがそうだった。17年前、「ブナなんてどこだって生えている。むかしなんかまっと、でっかくて太い木があった。ブナ林の保護なんて大げさだ」といわれた。

ヤナギ林の保護もこれと似ているような気がする。どこにでもあって、ヤブのような林。きれいな花が咲くわけでもなく、材として役に立つものでもない。これで経済活動が活発になるものでもない。ヤナギくらいで、そんなに騒ぐ必要があるのかという意識である。

ならば、なぜ、たいせつなのか？

一言でいえば、多種多様な環境をもつほど、将来にわたって安定した暮らしができる担保が保証されるということだろう。これは10年、20年という単位ではない。100年、200年、あるいはそれ以上のながい時間のなかでの話。わが世代だけではなく、子や孫、ひ孫、やしゃ孫まで安全に暮らせるためのもの。こんな気持ちをもつ人が、1人でも2人でも増えるようにがんばるしかないと思う毎日です。

(新国 勇)

ユビソヤナギは ならば、なぜ、たいせつなのか？

一言でいえば、多種多様な環境をもつほど、将来にわたって安定した暮らしができる担保が保証されるということだろう。

この辺りが、多くの人たちにとって、ピンと来ないのかなあ…

正論だけれど、日常の生活の中では実感し難い…。

お金にならないことにはモチベーションが上がらない…。

都市生活者と田舎生活者では、自然に対する考え方が根本的に違う…。

こうしたギャップを埋めていくのが、学ぶ会のミッションの一つなのかもしれませんね。

(佐野 豊)



いち早く只見に春を告げるヤナギ林

佐野さん、同感です

将来にわたって安定した生活が、なぜ担保されるのかの説明されてないですね。

生態系って、Webの世界のようにどこがどう絡んでいるのか分からない複雑さなので、「なんの役に立っているのか」分からないから、なるべく手をつけずに残しておくのがいい、ということだと思います。こと、自然界に対して「あんなの何の役にも立ってね」と言うのは想像力に欠ける思い上がりではないかと思います。

例えば、ヤナギ林があるから虫がいて、その虫がハヤの餌になっていて、ヤナギ林がなくなったらハヤがいなくなって、伝統料理のお平が作れなくなるかもしれない（あくまでも可能性です）。また、洪水の時に水流を弱めたり土砂を受け止めていたのに、林がなくなったら、水の流れが変わったり、ちょっとした増水でも堤防や道路が削られるようになるかもしれない。ひょっとしたら、ユビソヤナギから、キニーネみたいに病気の特効薬が見つかるかもしれない。

地球上に生命が誕生したのが36億年前。そこから、小惑星衝突などで5回ぐらいの生物大絶滅があり、その試練を何とか生き延びたものの子孫が、ヒトを含め、今、生きているものたちなので、それだけで貴重だ、という考えもあります。生物は生物からしか生まれません。それが綿々と36億年続いて、今、生きている。絶滅させるのは進化の芽をつむ悪行だとも言われています。

またまた、今、人類のせいで絶滅しているスピードは、これまでの大絶滅に匹敵する規模だと言われていて、人類がその汚名を残す訳にはいかないぞとも。

「おごるな人類」というところでしょうか。

Think globally, Act locally.

(高原 豊)

越後三山只見国定公園の見直し説明会参加報告

2019年7月19日 柳津町役場 参加2名
高原 豊

柳津町役場で開催された越後三山只見国定公園の見直し説明会に、渡部事務局長とともに出席してきました。

田子倉ダム以奥が国定公園に指定され、その只見川下流の両側が只見柳津県立自然公園に指定されていますが、この県立自然公園を国定公園に編入するための見直しです。今年度末までに、文献調査や有識者への聞き取り調査をして公園計画の原案を作るとのこと。これを元に来年度に県の審議会にかけて環境省へ申請し、環境大臣が指定する流れとのこと。パブリックコメントは来年度の見込みですが、今年12月頃に調査結果や公園計画作成に向けての説明会がある予定です。

説明会には、東北電力やJパワー、関係役場職員、野鳥の会の方など50人ぐらいが参加していました。

既存の文献調査では、古い情報しか集められず、南会津地方の自然環境に関する調査資料は少ないので、適切に現状を把握できないのではないかと考えられますが、今回のスケジュールでは文献調査がほとんどです。また、指定後の管理については、地元との連携によって管理していきたいとのことですが、国定公園は県が管理することになります。このため、県も尾瀬のような常駐するレンジャーを配置するよう要望しました。

なお、国定公園に編入されることによって規制が厳しくなる場合には、公民館のようなところで地元住民への説明



只見川流域町村の現行の自然公園の線引き

会を開催したいとのこと。

今回の見直しの主眼は、「グリーン復興」と環境省が言っている震災復興を目的に観光開発を図ることのようです。施設整備への補助金もできるようですので、自然を壊すような施設ができないよう注意深く見ていきたいと思えます。

越後三山只見国公園計画改定における意見の聞き取り調査

2019年10月15日 只見振興センター 参加5名
高原 豊

只見柳津県立自然公園の越後三山只見国定公園への編入に係るヒアリングについて報告します。

県側は、県自然保護課の守主^{もり}とアジア航測^{もり}2人の3名、学ぶ会からは代表ほか5名が参加。今回の聞き取りは、県が学ぶ会を特別指名したものと思われる。

県側としては、只見町内に生息する貴重な野生動植物についての情報提供をとのことでしたが、イヌワシやクマタカなどは町内全域が生息地と言ってもよいこと、ユビソヤナギの国内最大の自生地であること、ヒメサユリも国内最大の自生地であることなどを説明し、調査報告書などの資料を提供することにしました。県では、今年度中に原案を作る予定で、時間がないために、以前に計画があった蒲生岳

を公園区域にする以外は大きな変更は考えておらず、必要のない施設計画を削除する程度になるのではないかとのこと。

学ぶ会としては、沼ノ平での遊歩道の設置や浅草岳山頂付近への山小屋の設置は不要であることや、河川堤防のかさ上げによる景観破壊や新たな自然破壊を引き起こすような観光開発につながる計画にはしないでほしいと強く訴えました。

今後、只見町役場やブナセンターからもヒアリングを行う予定とのこと。なお、新たな公園計画案ができたら、地元説明会がある見込みです。

2019年活動報告

活動報告一覧(2019.1～2019.12)

- 1/15 水鳥観察会 滝湖・只見湖 参加11名
観察会終了後、昼食を兼ね「ひとつぶろまち湯」で定例会
- 1/25 「学ぶ会通信」発送 参加5名
- 2/5 新年会 民宿やすらぎ 参加15名
- 3/25 定例会・毘沙沢の裏山散策 会員宅 参加10名
- 4/8 春の草花観察会 黒谷・亀岡 参加16名
- 5/12 黒谷入花暦調査 第1回とバードウォッチング 参加9名
- 5/18 只見の自然に学ぼう会 「コモンズと只見の共同利用資源」講師：林雅秀氏 只見振興センター 参加20名
- 6/12 幹事会 会員宅 参加6名〈総会に向け2019年度事業ほか〉
- 6/15 総会 福喜屋 参加13名
- 6/16 黒谷入花暦調査 第2回 参加5名
- 6/25 カエルとホテルの観察会 三石神社周辺・黒沢 参加12名 講師：吉川夏彦氏
- 7/1 「虫草祭」準備 参加5名 季の郷湯ら里ロビーにパ

ネル展示(7/14まで展示)

- 7/13-14 日本冬虫夏草の会主催「虫草祭」を後援
- 7/14 只見の自然に学ぼう会 「虫にとりつく菌類 冬虫夏草のふしぎな世界」講師：貝津好孝氏・山本航平氏 季の郷湯ら里 参加50名
- 7/15 黒谷入花暦調査 第3回 参加6名
- 8/4 黒谷入花暦調査 第4回 参加5名
- 9/14 黒谷入花暦調査 第5回 参加6名
- 9/22 懇親会 会員宅 参加13名
- 9/25 定例会 ひとつぶろまち湯 参加10名
- 10/19 黒谷入花暦調査 第6回 参加1名
- 11/14 忘年会 叶津ビストロ叶屋 参加14名
- 11/16 黒谷入花暦調査 第7回 参加2名
- 12/13 ユビソヤナギ調査(只見町内) 参加3名

〈発行物〉

学ぶ会通信vol.13 1/30発行 A4判16ページ、オールカラー
学ぶ会カレンダー A5判16ページ、オールカラー
今年初めてつくったカレンダー。会員の撮った写真からセレクトしました。

春の暖かな日差しの中で 大人の遠足—今井邸訪問

2019年3月25日 毘沙沢 参加10名

定例会の後、冨美恵さん手造りのおいしいカレーとケーキを頂いて、英気を養ってから大人の遠足が始まりました。惰弱ものの私はかんじき等必要ないかと思いきやズボット容赦なくぬかり、仕方なくかんじきを着けて出発です。

今井邸斜め横から入るこのコースは数年前に一度行って



頂上近くのナラのあがりこ

いますが、今年は雪が少なく随分と様相が違って見えます。まず、右斜面下、ここは今井邸の水源なのだそうですが、なるほど水源あたりは苔やシダがもう顔を出していました。そして驚いたことにその下斜面が見事な隠し田(旧田)になっていました。重い体もこのあたりからようやく慣れて、後発の遅れ気味の方を思いやる余裕もでき、フィールドサインの観察もできました。そして頂上近くで今井さんがこの山の主と呼ぶナラのアガリコの巨木に再会し皆で感動…。しかし誰もメジャーをもってなくて測れませんでした。何たる失態でしたが、この前で記念撮影です。そして、ふうふう言いながら山頂到着。

仙台の佐野さんがこのあたりをスキーで散策されていた地図を思い起こしていましたが、なんともおぼつかなく、皆で遠くの白い山々を望みます。山頂のブナの根開きには早々とマンサクが咲いていました。早く帰らねばならぬはずの新国代表もなかなか帰ろうとはせず、ブナの水林の話聞くことができました。「みずばやし」と響きのいいこの言葉が残っているのも只見ならでは、ブナを大事に守ってきた先人の叡智の賜物です。帰りのコースの冬芽観察はアブラチャン、オオカメノキ、クロモジ等で盛り上がり、小さな雪まくりで感動しながらの下山でした。今井邸近くの石積みにはフクジュソウがけなげに咲き始めていました。

(鈴木サナエ)

春植物観察会

2019年4月8日 黒谷・亀岡 参加16名

春の妖精

仙台の自宅からちょうど5時間。黒谷の大コブシ前に着いたのは出発時刻の9時30分。ややっ、いつになく大勢の人たちが集まっているぞ！賑やかな観察会になりそうな気配がします。「春の妖精たち」に魅了された人たちなのでしょう。

この表現は、2016年春に只見町ブナセンターで開催された企画展「春植物の生活史 (Spring ephemeral)」で使われました。愛情のこもった素晴らしい愛称だと思います。

1人を除いて全員が車2台に分乗し、黒谷林道入口に向かいます。1人自転車を走らせる熊倉さん。真っ先に花を付けた河畔のユビソヤナギ。土手下に黄色く広がるフクジュソウ。近づき、そして、遠のいて行きます。只見の春の扉は全開状態です！

黒谷入

「くろたにいり」と呼ぶそうです。林道入口に停められたブルドーザの脇をすり抜け、一同フクジュソウ平へ。この冬は雪が少なく、路面にはすでに土が現れています。陽当たりの良い上方の斜面全体が、満開のフクジュソウに占められています。若葉の緑色と花卉の黄色が混色し、辺りの空気が温かく感じられます。ケヤキの大木や大岩を囲んだ木の根元では、白い木肌の幹を囲むように、そして、階段状のわずかな土を棚田のように、工夫をしながら上手に暮らしています。また、カタクリとは混ざることなく、互いに居住地を棲み分けているようでした。

勇さん曰く。「人手の入った里山ではなく、奥山にこうした群落が普通に観られるのは、雪崩が灌木を除去する役割を担っているから。天然自然の只見のフクジュソウ群落は、どう見ても普通じゃない。学ぶ会の我々も含めて(笑)」冒頭に触れた企画展でも、妖精たちの生き方を左右する大きな要因は、林床の太陽光量であると紹介されていました。



ちょうど見頃だった黒谷入のフクジュソウ群落

おわん型の花びら、それらにすっぽりと包まれたオシベをじっと見ていたところ、ふと、この花にまつわる面白い話があったことを思い出しました。少しずつ記憶の奥から浮上し、はっきりと言葉に出せるようになるまで、1分ほどかかりました。パラボラアンテナは、集光と風防の2つの機能を持ち、昆虫を心地よくさせる空間を用意し訪問を待っていると。

雪崩で亡くなった秋田マタギ衆が埋められたという大岩。林道入口の杉林の中にあります。詳しくは、只見町史第3巻P84をご参照ください。その大岩前で急遽催された美人モデルの撮影会(?)の後、再び車で黒谷発電所へ移動。



黒谷発電所

黒谷川を右岸から左岸に渡ると、ミニ発電所があります。左岸上流側にユビソヤナギが自生しています。大きな水力発電が多数存在する只見町に、なぜこのような小規模設備があるのだろうか？黒谷川上流に設けられたラバー製ダムから送水管を経て、ここの発電機を回しているとのこと。

ユビソヤナギとオノエヤナギの花序を手にとった和子さん。詳しい判別方法を説明して頂きました。ユビソヤナギの花の特徴は2つ。オシベの茎が太いこと(特徴1)、それらの根元を囲む黒い苞葉の先端が尖っていないこと(特徴2)。スマホで撮った写真を拡大して観察します。うーむ、なかなか難しい…。ユビソ検定の合格には、まだまだ勉強が足りないことを痛感しました。

黒谷阿弥陀堂のカタクリ畑

田んぼのあぜ道を歩いて、カタクリの自生地を定点観察。何も知らない人がこの光景を見たら、きっと、異様な集団に思うこと間違いなし。カタクリの開花には、まだ少し早かったかな。事件は起きませんでした(笑)。

白沢の黒谷川左岸堤防

2011年7月豪雨災害後に改修した堤防とその周辺で、フクジュソウの定点観察を行いました。堤防下の草地や杉林の中には、以前から自生しているフクジュソウが咲いています。しかし、左岸新堤防には、ほとんど見つかりません。堤防改修の工事関係者は、事前にフクジュソウのあった表土を削いで別の場所に残しておいたらしいのですが、それらは新堤防に移植されないままに工事は終わってしまったようです。



黒谷川の左岸堤防

菅原さんからは、現地ですら拾った堆積岩を示しながらのショートレクチャーがありました。日本列島の生立ちは、メレンゲと密接な関連があるそうです。

亀岡の伊南川右岸堤防

「湯ら里」正面の伊南川を南北にまたぐ亀岡橋。しばらく来ない間に、トレーラーハウスやステージ付の運動場ができていました。ユビソヤナギの集中自生地である伊南川流域の風景としては、なにか場違いな雰囲気があります。これらの施設から河川敷に降りるため、伊南川右岸堤防法面にコンクリート階段を設置する工事を、2019年度に福島県が計画しています。そして、河川敷を川辺まで観察できる親水公園化する案を、只見町が持っています。

こうした行政側の動きに対し、我々「只見の自然に学ぶ会」は、2018年9月13日に開催した定例会で、福島県と只見町に対し、異議を申し立てる事を決定しています。そして、2019年2月26日には、申し入れ書を内堀福島県知事宛に郵送、菅家只見町長に手渡しました。

ちょっと長くなりましたが、このような背景があり、今回の観察会で、実際に現場へ行って確認することになったわけです。

水際に、ユビソヤナギとシロヤナギが並んでいました。和子さんが幹の表面をナイフで少し剥ぎ、すぐ隣にあるシロヤナギとの違いを示してくれました。ユビソヤナギは鮮やかな黄色を呈します(特徴3)。花序とは別の判別方法を、また、教えてもらうことができました。

なお、この付近の伊南川は、河川敷端部まで速い水流が近接しているので、もし、公園化した場合には、安全確保の措置が必要になると思われます。

以上5か所での観察を終え、昼食会場のむら湯に向かったのは12時30分でした。

観察会を終えて

好天の下、春の妖精たちと1年ぶりに再会することができました。と同時に、自然と人間、2つの世界の橋渡し役を担う我々のミッションの重さを、改めて感じた観察会でした。自分さえ良ければ、今さえ良ければ、お金のためなら。金融資本主義に侵された現代の日本。物言わぬ自然の代弁者がいなければ、たぶん、この国に明るい未来はないでしょうね。(佐野 豊)

黒谷入花暦調査と バードウォッチング

2019年5月12日 黒谷入 参加9名

山笑う新緑の5月12日に第1回目の花暦調査を実施しました。黒谷川林道入口に集まったのは9人。今回は他の行事が重なり先鋭部隊でした。

加齢愚痴

今回は鳥類観察会も兼ねて行われたのですが、最初の言葉は「最近鳥の鳴き声が聞こえにくいんだよね」。小生はもとより参加の高齢男性陣は概ねモスキート音が苦手になってきたようです。結局鳥類は10種が確認されたようですが、「黒谷は鳥が少ない」とイタドリ^{イタドリ}の太い中空の茎で作った笛を鳥に負けずに吹き鳴らすイサムさんが微笑ましい。

Eureka

小生のごときは見つけた葉っぱは「これはカエデの仲間」で済ませてしまいましたが、他の参加者は博覧強記かつ徹底執着。「種を同定した時がEurekaなのよね」と図鑑を片手に、「葉裏の毛が違う」だとか「シテ類はなんとかかんとか」と立ち止り口角泡飛ばします。小生もなんとか耳をそばだて、植物の名前を聞いたつもりでしたが、3歩歩くともう片方の耳から出て行ってしまいました。

ラショウモンカズラ(羅生門蔓)

そうは言っても名前のいくつかは憶えました。今回の観察会で出会ったほんの一部を紹介します。「花が羅生門で渡邊綱に切られた鬼の手に似ているから」と言われてもなあ、「誰が名付けたんだか」の感じです。いい匂いがありますが、花を潰すと臭いになりました。



フデリンドウ(筆竜胆)

10cm以下の丈の先に1つから3つの花を付けた様子は可愛らしい。すでに少し背の高い草に埋もれていて、それを発見できるのはさすがです。小生の少ない知識の中ではセンブリに似ているかな。季節が違うか。

キバナイカリソウ(碓草)

「滋養強壯」と聞いて、いきり立ちましたが、一口噛めば「勇気凛々、元気百倍」ではなさそうなので、一舐めせずに

立ち去りました。

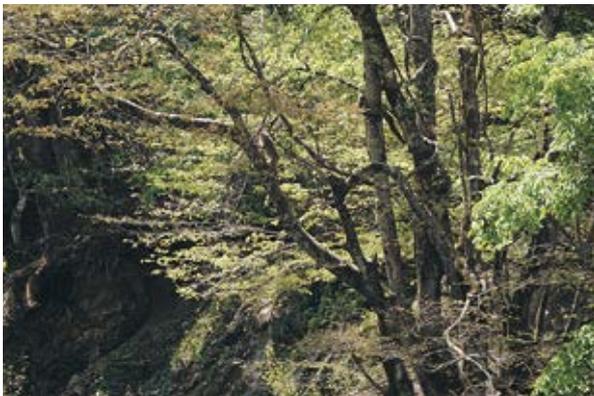
ヒトリシズカ(一人静)

他の花とは違う趣。2つの葉の真ん中に、か細いけど存在感のある花です。でもひとり佇むのかと思ったら、群れていました。シズカチャンがいっぱいです。



猿の沢渡り

第一発見者はみゆきさん。黒谷川の右岸左岸に数頭の猿がいます。谷の流れはきつい。行き来はどうしているのか。猿がお手々つないで兩岸の樹を伝わって沢を渡っているのかは、分かりませんでした。もう背がぐんと伸び、種を付け始めたフクジュソウの群落の上にも猿がいました。「猿にとって一番いい季節。天国気分なんじゃないか」とイサムさん。



かわいそう

帰り道、皆さんは林道から下に降りて探しています。「見つけた」とそこそこで歓喜の声。見せてもらいましたが、感想は……です。名前は速攻置き去り。小生は「かわいそう」とします。(菅原 孝)

「さっきサンショウクイが鳴いてましたよ」と朗くん。オラ「……？」

高齢になってくると、鳥の高音域が聞こえにくくなるという。ヤブサメのような超高音の鳴き声から聞こえにくくなるらしい。しかし、オラはサンショウクイの音がわからなかった。

ガーン！

鳥の声が聞こえなくなって、鳥がいないと勘違いした？

ガーン！！

黒谷入林道ではじめて行ったバードウォッチング。鳥果は、たったの10種。過去最低の記録です。ウグイス、クロツグミ、オオルリ、ヒヨドリ、サンショウクイ、アオゲラ、ツツドリ、カワガラス、ハシブトガラス、カラ類spだけ。加齢による感覚器官の衰えによって、鳥を確認しにくくなってしまった？ 若者まっさかりの朗くんのみずみずしい視覚と聴覚に嫉妬を覚えた観察会でした。

口直しに、翌日、寄岩林道を1時間ほど歩きました。ここでは、さっそく、クマタカを相手にサシバ夫婦がモビング(擬攻撃)をしていたり、ノジコやカイツブリが鳴いたり18種を確認できました。やはりここは鳥相が濃い！ オラだって、まだ若い者には負けねーぞい(強がりですが……)。(イサム)

カエルとホタルの観察会

2019年6月25日 三石神社周辺・黒沢
参加12名

事務局のカッコネーが前日になって呼びかけだあんども、なんと12人も集まっただけ。講師は、国立科学博物館から今年4月に慶應大学の先生にないやった吉川夏彦先生。タダミハコネサンショウウオの命名者であり、いま日本の両生類学の先頭をはしる新進気鋭の研究者だあ。その吉川先生は、只見が大好きで、「6種類のカエルの声がか所で聞こえるところは全国でもめずらしい。ぜひ、一度観察会をひらくべき」と言っていたことから、今回の観察会が実現したちゅうわけだ。

6種類のカエルどは、アマガエル、トノサマガエル、ツチガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、タゴガエルのごんだあ。田んぼ、森林、沢、ため池というよーないろいろな環境があるがら、たくさんいんだべな。

そこで、今回の成果。三石神社入口では、アマガエル、ツチガエル、モリアオガエルの3種。場所をかえて黒沢では、これにカジカガエルがはいて4種だったぞや。吉川先生によっど、時期が遅いそうで、6月はじめあたりがいーらしい。そんじえは、来年はその時期にやってみっぺちゅうごどになったぞや。

カエルの声なんぞ気ーつげで聞いたごどもながったが、ながなが奥が深くで面白っしえーもんだ。

カエルの声を聴きながら、ホタルと星空もよがった。ゲンジボタルがけっこう飛んでいっだっけ。漆黒の水辺でゲンジボタルが舞い、見上げれば、満天の星空。ごごに暮らせるしあわせを実感したぞや。(新国 勇)

第15回 只見の自然に学ぼう会

講演会 コモンズと只見の共同利用資源—叶津を中心に

講師: 林 雅秀氏 (山形大学農学部准教授)

2019年5月18日 13:30 ~ 15:30 只見振興センター 参加20名

コモンズとは、森林や牧野などの入会地のことです。近年、農山村の衰退によって、入会地の機能が失われつつあります。しかし、資源を持続可能なかたちで利用するためのルールや組織は、これからの地域づくりへのヒントにもなります。この講演会では、只見町叶津集落における林野利用を中心にしてコモンズの意義とその可能性についての講演でした。

只見の共有林野は、1950年以前の過剰利用期と、それ以降の過少利用期に分けられること、産業の変遷によって薪炭やカヤ、草地の利用が急減したこと、ゼンマイなどの山菜・キノコの利用に限定されてきたことなどが話されました。なかでも、昭和41年当時のサラリーマンの平均年収が486,000円ほどであったのに対し、ある集落ではその1.2倍、590,000円もゼンマイで稼いだ人がいたというおどろきの



報告もありました。

かなり地味なテーマでしたが、林先生のお話はわかりやすく、地元の方の情報提供などもあり、理解を深めた講演会となりました。

第16回 只見の自然に学ぼう会

講演会 虫にとりつく菌類 冬虫夏草のふしぎな世界

2019年7月14日 14:00 ~ 15:30 季の郷湯ら里 参加50名

「只見と福島冬虫夏草」 講師: 貝津好孝氏 (日本冬虫夏草の会副会長)

「虫にとりつく菌類 冬虫夏草のふしぎな世界」 講師: 山本航平氏 (栃木県立博物館)

日本冬虫夏草の会による2019年度の総会「第39回虫草祭」が只見町で開催されるにあたり、只見の自然に学ぼう会は受け入れ団体として後援することにしました。第39回虫草祭は、7月13日、14日午前に行われ、この会を記念して、地元一般町民向けにも講演会をしてほしいと、冬虫夏草の会にお願いしたところ、7月14日に日本冬虫夏草の会の貝津好孝氏、山本航平氏による講演会が実現することになり

ました。

貝津氏からは、日本で確認されている冬虫夏草は400種、福島県では125種だが、只見では50種くらいになるかもしれない。また、タダミヨコバイタケ、タダミクモタケなど7種類の新種候補があるとお話がありました。

山本氏は冬虫夏草の体のつくり、生活史、生息地などを概説したあと、ハチヤセミ、アリ、甲虫類から発生したさ



講演された山本航平氏(左)と貝津好孝氏(右)



貝津好孝氏の講演

まざまな冬虫夏草を紹介されました。まさに自然界の不可思議を地でいく姿に参加者はびっくりしていました。

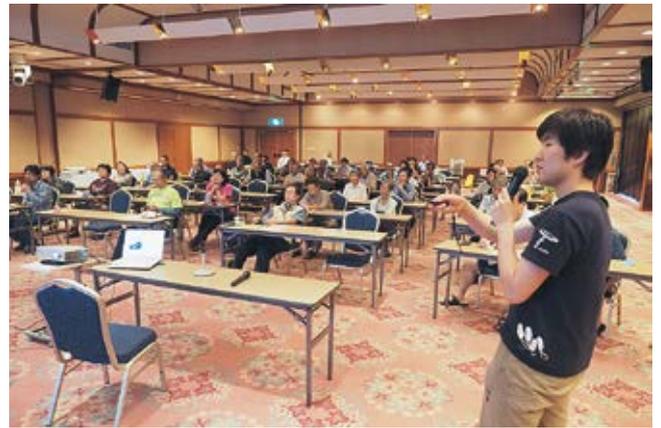
講演会終了後の夕刻より、日本冬虫夏草の会の方々と懇親会を開き、冬虫夏草の興味深いお話と只見の自然環境の話等で盛り上がりました。

また、会場の季の郷湯ら里ロビーにおいて「冬虫夏草のふしぎな世界展」と題し、日本冬虫夏草の会作成の写真パネルの展示を行いました(会期は7月1日-14日、主催：只見の自然に学ぶ会)。



湯ら里ロビーで行われた日本冬虫夏草の会作成の写真パネルの展示

なお、7月13日午後は、第39回虫草祭の記念講演として元郡山女子大学教授の広井勝氏による「福島県産きのこ、山菜の放射性セシウム濃度の動向」と題する講演会が一般公開により開催され、学ぶ会会員も多数参加しました(主催：日本冬虫夏草の会)。



山本航平氏の講演

只見の冬虫夏草(虫草祭)報告

貝津好孝

只見での「虫草祭」大変お世話になりました。冬虫夏草の展示や講演会、調査会等々、日本冬虫夏草の会の方々も只見の自然と只見の自然を学ぶ会の皆様に感謝しております。ありがとうございました。

只見での調査結果が届きました。概略をご報告させていただきます。

7月12-14日	湯ら里周辺	22種124個体
7月13日	あがりこの森	22種153個体
7月14日	恵みの森	39種151個体
7月15日	黒谷林道	9種50個体

冬虫夏草には早い時期で心配しましたが、最近にない成果に驚いています。やはり自然が豊なんですね。

第39回 虫草祭から

調査など虫草祭のイベントに学ぶ会会員も参加させていただきました。



恵みの森で行われた冬虫夏草の調査



調査後に行われた冬虫夏草の鑑定会



只見で当日採集された冬虫夏草

会員からの只見自然情報

学ぶ会メーリングリスト(2019年1月~12月)より

1/18 ばーが、ずねー、カナツクリ!!

只見町役場町下庁舎の屋根がらぶらさがっているカナツクリ、ちっと行って見でみっくんつえ。とにがぐ、たいしたずない(大きい)あんだ。長さは、7、8mはあるでなろうが。こだ、でっけえカナツクリは見たごどねえ。只見の名物になんであんめーが。(イサム)



1/23 かびだれウサギ

入叶津のヤマサ商店前の雪原で、ノウサギに出くわしたぞや。オラは雪まくりを撮っぺと思ってラッセル中。ノウサギは雪原の上に出たとたん、鉢合わせになっちゃったようだった。しばらく目を合わせねえようにしていただ。んじゃども、ウサギのほう待ちきれなくなっちゃってダッシュ。あとから写った写真をよーく見でみっくと、ウサギの毛羽が悪りい(毛並みが悪い)。皮膚病がなと思ったがそうでもなさそう。どうやら、かびだれ(水に落ちて濡れた)らしい。なんで、かびだれしたが、わがらねえども、とっばずして(間違っ)川か堀に落ちたか、イヌワシに追わっちゃ川に入ったが、それともキツネに追わっちゃが? むふふ…、想像ふくらむなあ。(イサム)



2/14 贈り物

毘沙沢もこの冬は今のところ雪が少なくなくて助かっています。家の前の消雪池に、今朝現れたオバケ? 皆さんには何

に見えますでしょうか。この現象は風のない寒い朝、うっすらと氷が張って、かつ乾いた雪がチラチラと降る条件の中で現れるようです。シャッターチャンスのをがすと短時間で形を変え、姿を消します。(毘沙沢)



2/23 近ごろキツネ多いなあ

「キツネが死んでる」どって電話がかがってきたんで、行ってきたぞや。場所は館ノ川から青少年旅行村に通じる林道の入口。体長1mのホンダギツネの子めらだあ。痩せているわけでもなく毛並みもよし。眼の瞳孔もはっきりしてだが、ここ数日で死んだんでねえがど思う。餓死ではなさそうも思ったども、解剖したわけではねえがらわがんねえ。しっがし、近ごろキツネが多いな。家のまわりや原野、川のほとりはキツネの足跡だらけだあ。タヌキやノウサギの足跡よりキツネの足跡のほうが多いんでねえが? 夜中、ぶっくっちゃ(こわれた)犬の鳴き声みでえな声で鳴ぐどぎもある。交通事故も多いしな。「平成狐コンコン」だ。(イサム)



3/2 この木食べたのは?

かた雪渡りに行ったら、初めて見る食痕。樹皮が剥かれて白くなっています。

同じような木なので食べられた木は一緒のような気がするのですが何本もありました。叶津、中ノ平神社から川下側の山沿いです。(こずえ)

こずえちゃんがめっけだ丸裸の木を見てきただ。これはニホンザルだわな。木の下には、サルのうちがこいっぺえだっけ。崩してみっと、木の繊維がっぺえ。食わっちゃ木は、全部ヤマグワばっか。幹だけでなく、先っちょの細い枝先についた冬芽もきれいに食ってだっけ。幹も枝も芽もみんな食わっちゃら、ふつうの木では死んぢもうべな。だども、クワの木は強え木だがら、ひこばえが出てまだ育ってくっど思う。サルにとっては、クワの木はよっぽど、うめえらしい。近くの木にからんでだフジの実もきれいに食わちえだっけ。人が食うど、酔ったようになっちゃうが、サルはさすけねえどっかな? ニホンザルの食い荒らした跡は、林の縁に沿ってずっと続いていだ。こだにしで、森の中をじゅうたん爆撃のようして食い歩いていんだだべな。(イサム)



3/9 春の日向ぼっこ

今朝はこの場所で日向ぼっここと決め込んだのか、動こうとしない。ゆったりとした動き、寝込んだ顔は優しいが、やはり野生動物の厳しい顔をしている。(毘沙沢)



3/16 アトリ

今朝100羽ほどのアトリの群れが訪れ

ました。昨日隣のハマさんとがんばって除雪して、再び地面が出たせいでしょう。 (明)



4/4 アトリ手に入れました!

オスです、すでに夏羽です、体重は21.5gです。今日も50羽位来ていました。メスの方が少ないです。 (明)



4/20 クロサンショウウオ

昨年は4月26日に報告していたサンショウウオの卵。まだだろうとうっかりしていたら、今朝はすでにこのような状態でした。3日ほど前には確認できていませんので、ここ1、2日だと思われます。 (昆虫沙汰)



4/21 オオルリ来たぞ!

まだかまだかと思ってだオオルリが、きょう来たようだ。浅雪だがら早く渡ってくるちゅうごどもねえな。例年並みの飛来だべな。川っ端のシロヤナギに、よぐ止まっでっから見つけてけやれ。

次の日、「青い鳥が窓にぶつかって落ちた」ちゅう一報が、商工会から入った。[やった! オオルリ、ゲット!]だと思って直行。んじゃども、生きっちゃ(生きていた)…。しばらくしっと、元気になったんで、脚をつかんで接写したのがこれ。なんちゅう、きれ

いな羽だべ。至福のときをいただいたあと、放鳥したずや。 (イサム)



4/23 スミレ

ニリンソウの近くにスミレがたくさん咲いています。フクジュソウはそろそろ終わりです。家の裏からはオオルリの鳴き声が聞こえます。 (ハル)



4/23 六十里越のサルの子

仕事で、六十里越に写真撮影に行ってきました。浅草岳登山口の休憩所まで開通していましたが、25日には新潟まで全通する予定です。まだ車の往來が少ないせいか、サルの群れに出くわしました。写真を撮ろうと車を停めたら、オトナのサルはさっさと隠れてしまいましたが、写真のチビスケが呑気に撮影に応じてくれました。今年は雪が少なかったので、このチビスケも無事冬越しできたのでしょうか。 (クマ)



4/24 衝突事故多発注意報

今年はずいぶんオオルリがお亡くなりになっていたようですが、こちらではクロツグミが。出入口しか開いていない駐車場に落ちていましたが、はたし

てなにがあったのやら…? (朗)



4/25 白いカタクリ

曇りでしたが、明日以降シャッターチャンスはないだろうということで出かけて撮りました。 (明)



4/29 キビタキ

坂田の友人から、「全体的に黒くて羽に黄色い部分がある鳥が家の前で死んでいる」という連絡をもらって、行ってみたらキビタキ♂でした。今年が多いのではないのでしょうか? (ゆたじー)



5/11 またまたゲット!

またまたモモンガの雄、ゲット! 小川沢の林道さ、落ちたど。体重57g。だいたい手のひらを広げた大きさ。こんじゃえ闇夜を滑空すんだがらたいしたもんだ。ずっと前、入叶津の浅草岳登山口駐車場でも死んでんのを拾ったごだ。なんでも、なんで、こだ死にがだ、しんだべな。 (イサム)



5/30 オオミズアオ

今年初のオオミズアオ。おお、うつくしい! (イサム)



5/31 キツネの死骸

4月から5月にかけて、3匹のキツネの死骸が裏の畑でみつけられました。何かの病気だったら困るので知人に相談したところ、はっきり判らないがネズミ駆除剤で死んだものを食べたかな、とのこと。食物連鎖まで考えない人間の身勝手な価値観の結果だね。死んだキツネは3日でたちまち骨と皮になっちゃった。(和子)



6/6 ブナの葉

只見の山を歩いていたら、白い葉っぱのブナの実生を見つけました。これは突然変異なのでしょうか。初めて見ました。(マイコ)



白いブナの新芽は突然変異でたまにあるそうです。葉緑素がないため栄養がつかれず、次の葉はできないで枯れてしまうそうです。最初の二葉は実の栄養でつくられるそうです。ブナセンターの紙谷館長がわかりやすく教えてくださいました。(和子)

6/12 塩沢の小さな田んぼ

只見線沿いの塩沢の裏道を行くと、写真の田んぼを見つけました。奥の田んぼも十分に小さいのですが、手前はほんとうに小さい。どのくらい植えてあるのかと100株まで数えましたが、もう少しありました。この小さな田んぼ

がいつからあるのか、その歴史を知りたいとおもいました。右のホースから水がちょろちょろ流れ込んでいるので、涸れないのでしょうか。オタマがたくさんいました。(クマ)



6/18 ヘビがカエルを

庭に見慣れないものが、よく見たらシマヘビがモリアオガエルを飲みこむ最中。ヘビの頭の3倍はありそうなカエルが、次第に飲み込まれていきます。自然だからしかたないねと写真をとったり観察していたらヘビに気づかれ、カエルを吐き出し逃げていきました。ヘビさんお食事邪魔してごめんなさい。(こずえ)



こだごだに出くわしてえもんだ。カエルを半分くらい飲み込んでたら逃げなかつたがもしんにえ。たしかに写真見ると、ヘビが緊張してるのがよくわかる。緊張すっど、かくばったようになる。(イサム)

6/22 チョコレートボール?

うまそうなチョコレートボールだべや。だども、ある動物の卵だ。入叶津の人がら届いたあんだ。山ん中で見つけたどっじゅう。全部で4個あったちゅうが、1個はつぶしてしまったじゅう。さで、これはなんでしょう?

A: ジムグリ(蛇)の卵、B: ニホンカナヘビの卵、C: ウグイスの卵
さあて、なんの卵だべや?
はい、このチョコレートボールみでえな卵は、ウグイスだぞや。



ほんとうは笹の葉でつくらっちゃ巣があったんだども、そーすつと、すんま、分がっちもーがんで、卵だげにして撮ったあんだ。このチョコレート色とおなじ卵を、ホトトギスやツツドリが、ウグイスの巣さ、生み落とすんだで。生き物の世界は多彩だ。(イサム)

6/23 エイリアン?!

網戸に止まっていた蛾。脚にはフサフサの毛が生えていて、ぶら下がっていただけ。異様かつ奇妙な姿態は、まったくエイリアンそっくり。(イサム)



7/3 ヘビの抜け殻

小屋の脇にヘビの抜け殻がありました。2m以上あります。アオダイショウでしょうか。(スガワラ)



7/17 草刈りをすると、赤トンボが集まる?

きょうのお昼どき、ばーか暑っちなが、只見高校下手の空き地の草刈りをしたぞや。そしだら、たいした数の赤トンボが飛んでっけ。最初は気にもしながっども、どうもオラの頭の上周辺

ばっか飛んでんでねーがど感じるようになった。草刈り機を止めて、離れて見てたら、やっぱり、草を刈った所の上空にばっか集まって飛んでっけ。これって、アフリカゾウが草原を歩くと、虫が飛び出してきて、それをねらってサギが集まってくんがなどおなじでねーの？ そんじえ、こんだは場所をかえて、ゆたじーのシャクヤク畑の法面の草刈りをしてみだ。そしだら、結果はおなじ。赤トンボが集まってきた。

7/23 セミの脱殻3種

右からアブラゼミ、ヒグラシ、ニイニイゼミの幼虫の脱殻。孫たちが集めてきたぞや。オラも小っちゃえころ、よぐ集めだもんだが、今では、ねっかはー、気にもしなぐなっちまった。年とってくっど、感覚がにぶちまうなー。

(イサム)



7/26 こいつ何者？

こいつ何者でしょうか？ 蛾の一種としかわかりません。羽根を閉じているし…。蛾の形態の進化は凄いと思います。

(ゆたじー)



もしかして羽化途中？ ただ、それにしては翅にシワがないようにも見えますが…。飛ばない種類だとしてもなんとなくサイズ感が中途半端な印象。何かの異常かも。触角もずいぶん小さくて、ちょうど眉みたいで可愛いらしいですね。種類はなんだろう、スズメガ？

(朗)

なるほどねー。羽根が伸びる途中でたくしあげられたようになっているのか。

実は、その45分後に見たら、羽根を広げていました。手元の図鑑で調べたらエゾスズメというらしいです。幼虫はオニグルミなどのクルミ科を食べるとのこと。撮影したすぐ近くにオニグルミがあります。オニグルミの木を降りて車庫の片隅でサナギになっていたということです。

(ゆたじー)

7/27 アブラゼミの羽化絶好調

いま、裏の畑にある梅の木さ、行ってきだら、なーんとアブラゼミの羽化まっさかり！ 1本の木に、羽化の最中のセミが12匹もいっけ。となりの梅の木にも3匹の羽化。上の枝まで探せば、まっといだべが、写真撮りに忙しくて、数えんの止めだ。ごは墓場の前っ手だども、面白っしあぐで、気持ちいい気はしねーな。蛍の鑑賞が終わったら、セミの脱皮ショーだな。

(イサム)



8/4 8月の花暦調査の報告だぞや

きょうの黒谷入林道の花暦調査の報告。ことしの最高気温36.2℃を記録した只見での調査。ひさびさの野山歩きであらゆる植物に興奮気味のオラ。ちょっくら、きょう見た植物を紹介すつつおや。

まずはエビガライチゴ。真っ赤な実はたいしたきれいで、うまがっけ。見てもきれいで、食ってもうめえ、きょうの花暦調査で文句なしの植物でした。



つづいては、カワミドリ。へんな名前だども、どっか印象的な草。葉っぱをちぎってかいでみっと、ミントより甘く

で、い〜い香り！ これはへだなハーブよりよっぼどいい。



クサボタン。これもむかしは多かったが、最近は出会う機会が少なくなったようだ。草刈りをしなぐなっちまって、森林化しだせえであんめえが。山道の法面さ、かぶさって生えるごどが多い。花冠の反り返りがなんとも粹だな。



最後はミズタマソウ。花の下の毛の生えた玉が面白っしえべや。これなら、水玉草っちゅう名前がついだそうだな。

(イサム)



8/14 今朝のブロッケン

今朝、7時30分ころの只見川のブロッケン現象。場所は常盤橋。朝からギラギラと太陽が照り、川霧があれば、かならず見られんずや。きょうはとくに日差しが強かったんで、二重のブロッケンが見られたじゅう。この外側の虹をフロアの輪という。これはめったに見られねえ現象。ブロッケン現象は、英名「グローリア」、日本名「御来迎」。今年の

酷暑は、ブロッケン見物の当たり年。みんなで見に行っちゃれ。ちなみにオラは行けなかったんで、この写真はオラの娘が撮ってきたあんだ。(イサム)



8/15 オクラみたい

こちらに遊びにきていた妻が、近くの林道でこんな写真を撮ってきました。「オクラ？」と聞いたら「イケマの実」とのこと。花を見せてもらいましたが、何でこの花がこんな実になるのか。自然って不思議ですね。(大友)



8/22 二又ねこじゃらし!

夕方、散歩中、見つけたネコジャラシとエノコログサ。どごにでも、いっぺえ生えでんども、こだ、花穂が二又に分がっちゃんのは、めずらしいべや。(イサム)



8/25 この鳥、何だっちょ?

この小さくて、くちばしが曲がった鳥。面白っしえべや。ハチドリではねえぞや。けっこう、めずらしいあんだあ。三島町の奥会津書房の窓ガラスにぶつ

かったんだ。一報を受けて、冷凍庫に入れておいてもらったあなをきんな、取りに行ってきたんだ。さで、このレアな鳥は何だっちょ? 当てたらエライ。



これはキバシリです。木の幹をぐるぐる走りまわる、すばしっこい鳥です。(イサム)

8/25 アメリカネナシカズラ

河川敷の道路脇にカップラーメンをぶんむぐった(ひっくりかえした)ようなごある。アメリカネナシカズラちゅう帰化植物。寄生植物なんで光合成もしねえ。だから、緑色でなく、干からびたラーメン色。名前どおり根っ子もねえ。近ごろは、こればっか増えて、国産のネナシカズラは、ねっか見らんやぐなったな。これも、人間の仕業。困ったもんだ。(イサム)



8/27 猛禽のロードキル

国道の杉沢から湯里の間で猛禽が落ちていたとの連絡を受けて、回収してきました。全長23cm。フクロウのようですが小さい。



鳥好きの知人に問い合わせたら、オオ

コノハズクではないかとのこと。貴重な記録とのこと。くりくりお目がかわいい。(ゆたじー)



9/7 ミヤマカラスアゲハ

先ほどトリに餌をやりに行ったら、ばっかキレイなチョウがひらひらと鶏小屋の近くにとまりました。カメラを取りに戻っても、まだじっとしていたので、ゆっくり撮影できました。ミヤマカラスアゲハの夏型みでしょうか。よく見ると触覚が1本欠けています。ちょっとお疲れなのかな。(クマ)



綺麗ですねえ、美しいですねえ! それにしても夜の蝶にピッタリの装いですね。私もこんなお洋服が欲しいです!(サナエ)

9/13 十五夜中継 from 只見

今夜は十五夜だぞや。くっきりはつきり月が出てんぞや。急ごしらえで、箕さ、15品の野菜をそろえて、上げ申したぞや。ほんとは、もち搗いで、もちを上げ申すどころだども、間に合わなかつたがら、まんまで勘弁してけやれ。

(イサム)



9/14 花暦調査 in 黒谷入

きょうは9月の花暦調査。いつものように、なめつくすような観察会。

ここはフロラ(植物相)が豊かで、毎回発見がある。9時30分にはじめて、終わったのは午後の1時50分。はあ、まんま食うどごが、みんなしまっちもう時間だ。唯一やっでるむら湯さ、行って、やっと昼飯になった。それぐれえ、面白しえどごだ。



写真は、ツリフネソウのつぼみ。林道は、ツリフネソウの群落がずっと縁取っていで、花のまっさかりだ。開いた花より、こっちのほうが面白しえ姿だべ。舌出した宇宙人のようだ。



これはヒロノゴマギの果実。一帯はこの大群落になってる。真っ赤な実がなっでいで、サンゴみでえにあぎやかだ。葉っぱを嗅ぐと、ゴマくせえ匂いがプンプンすっつおや。



コメナモミの花。これもいまが盛り。タコノ足のような、ねばねばする総苞片そうほうへんが特徴。

最後はカラハナソウ(唐花草)。日本製ホップちゅうどごだべな。(イサム)



9/19 ヨタカgetだぜ!

夕方、ブイチェーンで買い物をしたもどり道、車にドンと、なにかつよくぶつかった。なんだ!?!と、車をバックさせてぶつかったあたりを探すと、なーんと、ヨタカさんでねーの。気絶したあなを拾ってきて写真を撮ったのがこれ。撮影後、木の枝にとまらせてみだが、あんま元気ねーだ。あしたの朝、様子をみでみっぺえと思っでる。てなわけ、きょうはヨタカどの遭遇だったぞや。(イサム)



9/24 アサギマダラ

フジバカマの花にアサギマダラがきました。秋の七草フジバカマの蜜に含まれる成分が雄の性フェロモンに必要なのだとか。蜜に夢中で近くで写真が撮れました。(こずえ)



アサギマダラは、ふわふわ飛んでゆっくり止まるがんで、捕まえやすい蝶々

だ。ちなみに、蜜を吸いにきた花は、ヒヨドリバナだと思っぞや。フジバカマは、準絶滅危惧種で、只見にはねえ花だ。ともがく、こんじえ、長浜以外にもアサギマダラが飛んでくるのがわかった。(イサム)

10/1 クマのあれ

昨日、只見に着き、庭先に何かあると隣の友人に言われ、見てみると、なんとクマのあれがありました。庭のクリもすっかり無くなっており、ビックリ!! (ハマちゃん)

長浜柄沢情報。しばらく家を空け、さぞかし小屋の周りにはクリの実が落ちていたかなと思いきや、ない。イガはたくさんあるのに。誰かが拾ったか、人かそれとも。証拠は小屋の前にありました。先日の情報から30m離れたところ。徘徊してるようです。(10/9 菅原)



ハマ家向かいの我が家も、クリはきれいさっぱり食べられ、行きがけの駄賃とばかりに落し物が…。迂闊に夜、外に出られませんか。 (10/9 大友)
クマが夜な夜な家の庭のクリとクルミを食べにきてます。クルミはガチャガチャに噛み砕き糞は白っぽく、クリのそれは黒っぽかったかな。センサーカメラでキャッチしました。親子熊が数年前に罠で捕まり銃殺されたのを目の当たりにして、通報はしていませんが、近所住民には注意を呼び掛けています。(10/10 和子)

10/4 また来年?

今日の11時半から12時頃でした。おや、何か…と見上げると、なんとなんと、アマツバメの大群が! ざっと100羽ほどはいたでしょう。近くからはちょっと気持ち悪い、という声も聞こえてきて、縦横無尽に飛び回る様子は確かに、どこぞのホラー映画のようでもありました。南に渡る直前なのかな、と考えつつ、作事中に隙をみて見上げておりました。(朗)

10/15 これは何?

ヤマサ商店に来たワシタカ。これは何? (夢街道)



わお、きれいなノスリ! (イサム)

10/24 かわいいやつ

畑で、シャクヤクの掘り上げをしていたら、土の中から野ネズミが出てきました。耳が丸くて、胴体のわりに足が短いのか、モコモコ動いてかわいい。スミスネズミかも。(ゆたじー)



10/26 スッポンタケ

きょう、おらいの墓場のヤブん中さ、これが生えちゃっけ。球体がいきなり割れて、ニョッキど飛び出てくる。スッポンタケっちゅうキノコなんだども、スッポンより男根にそっくりだあ。ハエが集まってなめまわしでだな。(イサム)



11/4 ミソッチョだ!

ブナセンターがら、新鮮なミソッチョが手に入ったどって連絡が入った。ミソッチョの死体は、手にしたごどながったんで、さっそぐ行ってみた。羽の痛みもねえ、きれいな完全個体! 体長9センチ、体重8.5g。10円玉2枚より軽い。こだ、ちっちえ体しで、谷じゅうに響きわたるさえずり、すんだがら、

たまげっちも一な。ちなみに、これは、ヤマサ商店の窓にぶつかっらしい。



ミソッチョ (ミソサザイ)は、只見方言だぞや。(イサム)

11/5 脱帽

見つけると、ついついカメラを向けてしまう…。このデザインカに脱帽。(毘沙沢)



11/24 楽しいハイキング

雨の予報が外れて良い天気になったので午後から某所へハイキングに行ってきた。泥地には立派な足跡が沢まで、途中の道路脇にはミツバチの巣箱を壊して散々蜜をなめつくした跡、そばの木には爪跡。クマの痕跡を大いに楽しみました。

ついでに山の幸のおまけまでついて、これは言うことなし! (明)



11/27 最後の日向ぼっこ?

アキアカネが温かい所で陽にあたっていました。(明)



12/8 密集テントウムシ

ふゆがき
車庫の冬垣(冬囲い)をしっぺどしたら、溝の端っさ、テントウムシがびっしりくっついてだ。みごとなんで、写真で記録しなぞや。ちなみに、4種類ぐれえいそうなんだども、だれかくわしい人がいたら、教えてくんつえ。(イサム)



これ、柄はまちまちですが、全てナミテントウだと思えます。羽の色や斑紋は同じ種類とは思えないヴァリエーションがあるようですよ。エンドウマメでおなじみの、メンデルの法則で決まるようです。(大友)

12/11 セイタカオオウバユリ

ユビソヤナギ調査の折、深沢地区の国道289号のわきに、大きなオオウバユリを発見! 草丈なんと190cm! あんまり背が高えので、セイタカオオウバユリと命名したぞや。(イサム)

